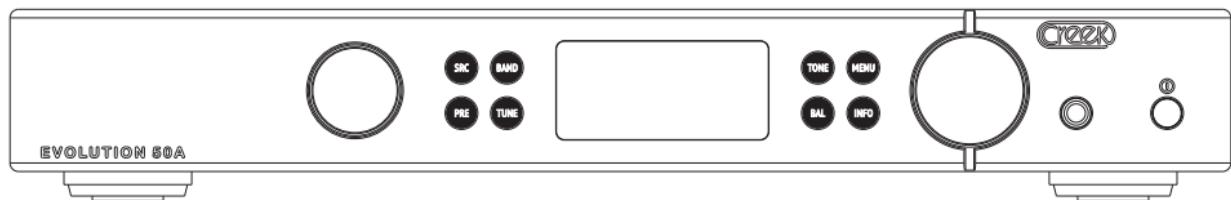


Creek

RUBY DAC



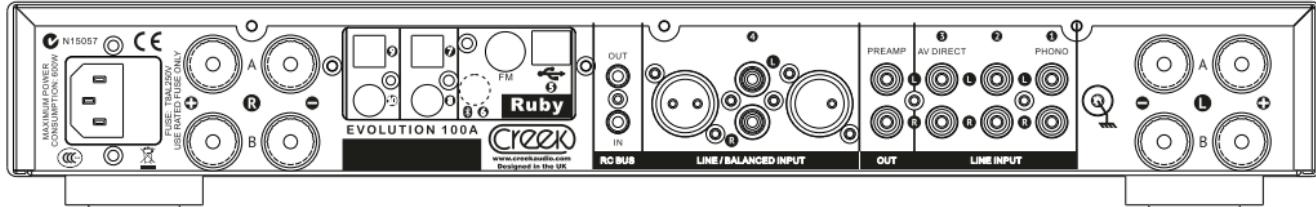
EVOLUTION 50AとEVOLUTION 100Aへの、RUBY DACモジュールのインストール方法

RUBY DACとFMチューナーモジュールは、アップグレード用のオプションにて、Evolution 50Aならびに Evolution 100Aに対応しております。セットアップは、お買い求めの販売店に依頼すべきですが、距離が離れてい不可能な場合に、この説明書は、安全なセットアップの手助けをします。

RUBY DACの機能と操作は、いたって簡単ですが、これらの説明書では限られるので、最新版の内容の確認を、次のCreek Audio webサイトで行って下さい。

www.creekaudio.com/instructions/ruby-dac-manual.pdf

セットアップと操作の前に、下記の説明書を注意深くお読み頂き、必要とする際の為に、このユーザーマニアルは保管して置いて下さい。



RUBY DACとFMチューナーモジュールの取り付け

安全の為、最初に！カバーを外す前に、電源コンセントを抜いて下さい。

EVOLUTION 50A もしくは100A インテグレイテッドアンプのトップカバーから、4本の側面ネジならびに背面の3本のネジを外します。これらのネジと割りワッシャーを、再度の設定の為に、無くさない様に気を付けます。カバーの中央が、曲がらない様に気を付けて、カバーの片方を引っぱり上げ、カバーを外します。

RUBY DACは、EVOLUTION 50A v1で、シリアルが‘EVO50A S/B 1315 0500’迄には、取り付けが出来ません。

上記のシリアル以降のEVOLUTION 50AとEVOLUTION 100Aのリアーパネルには、**LINE INPUT 5**と表記された、一組のRCAソケットを装着した、機能拡張用のプレートを装備しています。入力5のソケットは、90 x 36mmのプレートに取り付け、2本のTorx7ネジで、リアーパネルに固定されているので、パネルから取り外して、プリアンプの基板にある、**MODULE**と表記されたソケットから、フラットフォイルケーブルを引き抜きます。

RUBY DACモジュールからの、110mmフラットフォイルケーブル(FFC)を、プリアンプ基板の**MODULE**と表記されたソケットに、挿し込みます。

RUBY DACの基板は、後部パネルに向かった、ソケットが後方に面している状態(むき出しの基板が上向きに面し、部品が下を向いている)に持つ。モジュールの下で、FFCを折り重ねて、ソケットに差し込む。その後、モジュールを後部パネルの'拡長スロット'に填め込む。その場所に、それを振ることは、ギリギリの作業ですが、以前に、取り外した2本のネジを用い、Torx 7ネジ用ドライバーを使用して、しっかり後部パネルに、RUBY DACモジュールを固定します。割りワシャーを、同じネジ位置に戻し、従来と同じ様に、カバーを取り付けます。

N. B. モジュールを出るケーブルが、ねじれず、且つ回転しないで、プリアンプへ真っすぐ挿入する事が、非常に重要である。ケーブルをねじって、アンプに取り付けると、内部のヒューズが燃え、アンプを修理するために、販売店ないし輸入元に、送り返す必要になるので、注意してください。

DIGITAL INPUTS

RUBYモジュールは、非常に高品質な、デジタルアナログコンバータ(DAC)であり、信号を24bitのワードレンジスで、最大192kHzのサンプルレートにて、受け入れることができる。これは、様々なデジタルソースからの信号を、アンプが扱うことができるアナログに変換する。

INPUTS: COAX(8)と(10)の同軸ソケットは、SPDIFデジタルソースに対応し、最大24bit 192kHzの分解能で、CDプレーヤやネットワークレシーバなどと接続するためである。

2 TOSLINK ソケット(7)と(9)は、最大24bit 192kHzの分解能にて、SPDIFディジタル信号の、光入力として提供。光での接続は、ソースとアンプ間の、グランドパスを隔離することが出来、干渉の形成と性能の低下を、抑える点で有能である。

USB Bソケット/プリンタ用(5)にて、アンプをコンピュータに接続し、外部のサウンドカードとして、使用するのを可能にします。USB入力に、コンピュータを接続する際は、3m(10フィート) より、長いケーブルの使用は、避けべきです。コンピュータに接続するには、先ず初めに、インターネットに接続されていなければなりません。USB回路は、コンピュータが、RUBY DACとコミュニケーションする為の、適当なドライバーを搜します。その後に、コンピュータは、RUBY DACを使用のための、USBドライバーをインストールした事を報告します。OSXデバイスには、ハイレゾ信号を、特別なドライバーなしで、使える可能性があります。しかし、これを可能にするは、まだプラグインを必要とします。インターネット検索では、様々なオプションの必要性が指摘されています。クリークでは、コンピュータやオペレーティングシステムなど、外部デバイスの安定性と最適化の点から、受け入れることが出来ません。専用のドライバーが、組込まれた場合のみ、コンピュータはUSBを通して、ハイレゾ信号を渡すことが出来ます。これらが、無料で使える様には、ならないでしょう。クリークは、あらゆる外部デバイスとソフトウェアの適切な運用にも、責任を取る事は出来ません。リモートアプリでは、コンピュータの音楽ライブラリーをナビゲートする、フレキシブルなオプションとして、クリークは、あるHID機能（ヒューマンインターフェース）を持つように、RUBY DACをプログラミました。EVOLUTIONのリモコンを使えば、PlayにStop, Pause、さらに前方へ後方への、曲の送りも出来ます。この限られた機能性は、EVOLUTION製品には表示されない。それが、コンピュータに接続されている、モニターとかディスプレーの代用品ではなく、スマートフォンやタブレットなど、携帯デバイスを走る、リモートAPPより、容易にナビゲートします。

BLUETOOTH

RUBY DACのBluetoothモジュールは、アンプの内部で、金属ケースに保護されていて、短いアンテナを、金色のFソケット(6)に、ネジ込み、取り付けないと 無線のBluetooth信号を、受信することができない。パッケージの中にある、短い黒いアンテナを見つけ、Fソケットに、それをネジ込み、取り付けて下さい。そして、他のケーブルの障害にならない様に、それは折り曲げができる。RUBY DACには、様々なデバイスから、音楽信号を受信することができる、Bluetoothレシバーがあり、最初に、スマートフォンやタブレットなどのBluetoothの設定で、ソースデバイスを見つけることが必要である。Bluetoothデバイスとして、表示されているEVOLUTIONを選択します、そうすれば、そのデバイス上に記憶されます。必要ならスマートデバイスから、EVOLUTION Bluetoothを、消しさることもできます。通常、アンプの入力セレクタに、Bluetooth入力が設定されているならば、RUBY DACは、選ばれたデバイスとのペアリングを行い、10-15mの距離まで、音楽信号を渡す事が出来ます。ビルは、異なった技術構成と使用される材料で、障害の量は変わり、対応の距離は、より素晴らしいか、より短いかもしない。また、Bluetoothと同じ周波数で作動する、他の無線デバイスによっては、信号応対の信頼性に、影響するかもしれない。

FMラジオ: アンテナの接続

一時的な対応として、**FM**同軸ソケットに差し込む、1.5mの単線の**FM**アンテナが用意しておりますが、ベストな信号を得るためにも、多素子の**VHF-FM**専用アンテナをご使用ください。

FMのリージョン（周波数）設定

電源を入れる前に、**MENU**ボタンを押したまま、電源を投入します。ディスプレーに、Creekロゴが表れた後に、**MENU**ボタンを押すと、セットアップのメニューが表れます。左手のツマミにて、Broadcast Regionを選択し、再度、ツマミを押し、日本の周波数バンドを選択し、**MENU**ボタンを押せば完了です。

EVOLUTION 50Aフロントパネルコントロールと操作

RUBYのチューナー機能の大部分は、左手のコントロールノブと3個の押しボタンによって、コントロールされる。Line入力からTunerに切り替えるには、3個のTuner関連ボタンのいずれかを押します。アンプの**LINE**入力に戻すには、SRC(Source)ボタンを押します。**BAND**で、Line入力からTunerモードを選択します。RUBYは、FMバンドの対応となります。

TUNEで、手動のチューニングモードか、自動の**SEEK**モードを選択します。**TUNE**を押して、左手のノブを回転させて、周波数を上下させ、ステーションに合わせます。ノブを押せば、回転式のコントロールによって、以前に選局された方向に、**SEEK/SEARCH**を開始します。

PREスイッチは、ステーションのプリセットモードです。左手の、コントロールノブを回すごとで、99の局設定が可能です。プリセットは、手動ないし自動的で、設定することができる。双方の方法は、下記のパラグラフが詳細となります。

プリセットで、局を格納する、いくつかの方法

1. 自動ないし手動での選局

PREボタンを押し続け、**FM**に代わってプリセット番号が、スクリーンにフラッシングするまで待ちます。フラッシングしている番号は、最後に使用された番号となり、望むならコントロールノブを回すことで、あらかじめセットされた局を、取り替えることができる。チューニングした周波数を格納するには、再度、**PRE**ボタンを押します。これで、選んだ局が、この番号に格納されます。何もしなくても、9秒が立てば、キャンセルとなります。

2. 選局をリピート

3. 自動の**SEEK**と使用可能な局のプリセット

PREと**TUNE**と一緒に、約3秒間押し続け、自動の**SEEK**がスタートし、チューニングが完了し、取り込むまで待ちます。信号強度と品質が備わった、全ての局は記憶され、連続したプリセット番号が、与えられます。

4. 格納されたプリセットをクリアするには、**SETUP MENU**からFactory Defaultsを選択します。

RDS(米国はRBDS)は、Radio Data Service ないしRadio Broadcast Data Serviceを意味する。殆どの、国際的な**FM**ステーションは、RDSを放送しています。受信された信号が十分に強く、放送局がRDSデータ放送しているならば、OLED表示は周波数の表示から、RDS情報に切り替わります。

DISPLAY EVOLUTION 50A ないし100AのQLEDディスプレーには、RUBYチューナーとアンプの、下記の状態が表示されます。

1. プリセットの局番号：01 - 99
2. 周波数
3. **BAND**には、RUBYの機能がない
4. **RDS**
5. ラジオマトリックスを、ディスプレーのトップに、グラフィックフォームで表示
6. 信号強度を、バーグラフのアンテナとして表示
7. 信号品質を、Qとして、バーグラフの横に表示、信号、雑音およびパルチバスの組み合わせ
8. ステレオは、完全な幅の**STEREO**、部分的なステレオおよび**MONO**として表示
9. **PS**は、プログラムサービスにて、局名の表示が可能
10. **RT**は、局に関する情報を、最大64キャラクターにて表示が可能
11. **CT**は、タイムデータが利用可能

TIMEは、リアルタイムで表示します。スクリーンに示される、RDSインフォメーションには、TIMEが含まれないので、一度、INFOを押します。リモコンからは、TIMEかINFOボタンを、押します。

INFO、Tunerモードで動作し、異なったページの情報を表示、チューナーとRDSデータが利用可能です。異なったページを表示するために、何度か、INFOボタンで呼び出し、切り換えることが必要です：プリセット番号、周波数、チューナーマトリックス（PS, RT, CTの詳細表示）

STEREO/MONO RUBYは、良いSN比を維持する為に、自動的にLeft/Right分離を調整。

EVO 50Aと100Aアンプには、リモコンが付属しています。RUBYチューナーのリモコン操作の詳細とマニアルの全ては、Creek Audio webサイトの、EVO 50Aか100Aのページで、確認して下さい。そこでは、完全なマニアルのダウンロードと操作ビデオを提供しています。

我々は、あなたがRUBY DACとTunerを、楽しまれる事を望んでいます。何か質問があるならば、お買い求めの販売店ないし輸入元に連絡して下さい。

裏ページのQRコードで、速やかにwebページを開くことが出来ます。

Creek Audio Ltd

12 Avebury Court, Hemel Hempstead, Hertfordshire, England HP2 7TA
email: info@creekaudio.com www.creekaudio.com Tel: +44 (0)1442 260146



www.creekaudio.com/instructions/ruby-dac-manual.pdf